

「美しき嫌われ者”花粉光環”(4)」

お茶の水女子大学附属小学校教諭

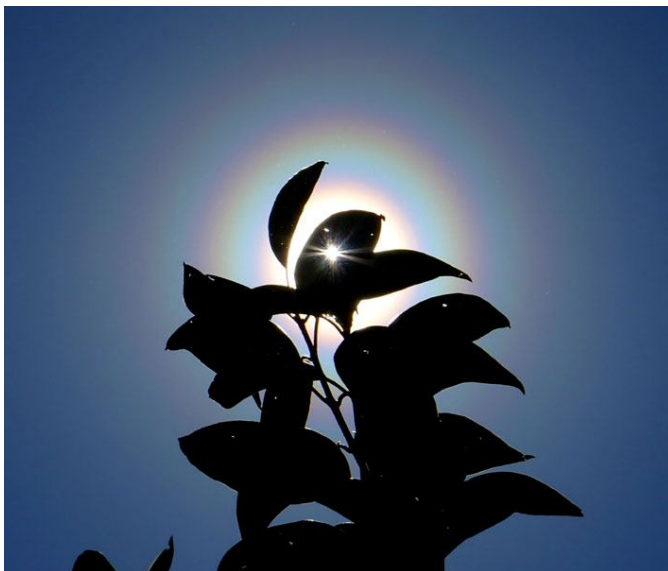
お茶の水女子大学サイエンス&エデュケーションセンター研究員

田中 千尋 Chihiro Tanaka

花粉光環は、特別な現象ではない。3月の上旬から下旬の雨のあとのよく晴れた日なら、出現していない日のほうが少ないくらいだ。光環の強度(見え方)で、花粉の飛散量がある程度わかるのも面白い。



適当な遮蔽物があれば、簡単に撮影もできる。これはマンション最上階の庇で太陽を遮蔽して撮ったものだ。約270°の光環が写っている。私は、もっと季節感のある写真を撮りたいと思った。マンションでは季節感が出ない。やはり樹木や植物が良いだろう。



この写真は今年の3月、花粉が多かった日に撮った光環の写真である。枝についた葉越しに、光環が見えている。葉の中に虫食い穴があって、そこから太陽光がもれているのが面白い。残念ながらこの樹木は常緑樹だったので、季節感は出せなかった。



花粉が飛ぶのは季節的には「早春」と言える。落葉樹は、まだ冬枯れの状態である。こんな感じの樹木越しに撮影すると、ちょっと季節感が出る。



拡大するとこんな感じだ。太い枝のコブのような場所に太陽が隠れるようにすると、光環がよく写る。しかしこの木は、あまりにも枝がしつこい気がする。



やはりこのようなやや太めの、シンプルな枝が一番よく写る。できれば梅か何か、早春の花が咲いている木がよかったのだが、そういう木は見当たらなかった。しかし光環は非常によく写っている。この日は恐らく、関東一円でこの現象が観測されたはずだ。一体この日、何粒の花粉が飛んでいたのだろうか？